

生物科学学会連合 第6回連絡会議記録

日 時： 2001年5月21日(月)午後1時30分～4時
場 所： 学士会分館(東京・本郷)
出席者： 鏡山 博行 川寄 敏祐 正木 春彦(世話役, 日本生化学会)
池内 達郎(日本遺伝学会) 平野 寛(日本解剖学会)
中野 明彦(日本細胞生物学会) 邑田 仁(日本植物学会)
大森 正之(日本植物生理学会) 長谷川政美(日本進化学会)
小幡 邦彦(日本神経科学学会) 菊沢喜八郎(日本生態学会)
片山 舒康(日本生物教育学会) 木下 一彦(日本生物物理学会)
本郷 利憲(日本生理学会) 松田 良一(日本動物学会)
松田 良一(日本発生生物学会) 桑澤 清明(日本比較生理生化学会)
荒木 弘之(日本分子生物学会) 烏山 一(日本免疫学会)
(欠席) 日本神経化学会 日本比較内分泌学会 日本薬理学会 (敬称略, 学会名五十音順)

配布資料： 1. 連絡者名簿(2001.5.21)
2. 第5回連絡会議記録(案)
3. 科学研究費の運用に関する要望書
4. 全国科学技術教育研究センター設置趣意書
5. 大学等における生命科学の基礎教育充実のためのワーキンググループ(仮称)

議事に先立ち、世話役の日本生化学会・鏡山会長から挨拶があった。

議事要旨：

1. 前回記録の確認

原案通り承認した。

2. 科学研究費の運用に関する要望書(日本細胞生物学会)

日本細胞生物学会作成の要望書案文について討議された。文中にある「日本細胞生物学会、日本発生生物学会等において」は、特定学会のことと受け取られないよう削除し、対象学会を広げる表現として、加盟学会に再度回覧の上、賛同学会名のみを連合名の下に明記し、学術振興会に提出することとした。

3. 実験動物の規制について報告・説明があった。(日本生理学会)

野生サルについては「環境および生態に関する研究」に限定されるようになった。

動物管理法は動物愛護法に変わり、5年後に改訂される。

供給業者の乱暴な動物の取扱いが非難を増長させている面がある。

捕獲野生サルを実験に使えるような環境造りが求められる。

霊長類学会も動物の闇取引を排除する意味からコロニーの形成を要望している。

4. その他

1) 全国科学技術教育研究センターの設置について

物理学研連委員（明治大学理工学部）江尻有郷氏より寄せられた、同センター設置に向けて連合も発起人として加わってほしいとの要請については同意することとした。

2) 生命科学の基礎教育充実について

生命科学の基礎教育充実に向けて新しい教科書を作ることに連合として取り組んではどうかと日本生化学会から提案があった。これに対し、各学会からのボランティアによるワーキンググループ（WG）を設置する、文部科学省内にWGの設置を嘆願する、などして連合として取り組んではと発言があった。ひとまず各学会よりWG適任者の推薦を乞うこととし、その後は世話人に一任願うこととなった。

5. 次期世話役は日本細胞生物学会，副世話役は日本遺伝学会にお願いすることとした。

以上